

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

### 病害虫防除情報第 1 号

施設野菜の病害虫対策についてとりまとめましたのでお知らせします。  
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

## 次期作付のための病害虫対策として、栽培終了時の 蒸し込みと残さ処理を徹底しましょう。

1 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト等）

2 病害虫名 コナジラミ類、アザミウマ類、土壌病害虫

### 3 発生状況（経過）

- 1) 4月の巡回調査におけるタバココナジラミ類の発生は、冬春きゅうりの発生面積率が7.1%（前年46.7%、前々年21.4%）で前年、前々年より少なく、100葉虫数が10.4頭（前年4.6頭、前々年0.6頭）で前年、前々年より多くなっている。また冬春トマトでは、発生面積率が38.5%（平年22.9%）、100葉虫数は2.7頭（平年3.5頭）でいずれも平年並である。
- 2) 4月の巡回調査における、冬春きゅうりでのミナミキイロアザミウマの発生は、発生面積率が42.8%（前年33.4%、前々年21.4%）、葉当たり虫数が6.1頭（前年3.4頭、前々年1.2頭）でいずれも前年、前々年より多くなっている。ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病の媒介昆虫であり、保毒虫が施設外に拡散すると露地栽培きゅうりやその後続く施設栽培で病気の蔓延を引き起こすことが懸念される。
- 3) 4月の巡回調査における冬春ピーマンでのミナミキイロアザミウマの発生は、発生面積率が53.4%（平年54.0%）、10花当たり虫数が2.6頭（平年2.1頭）で、いずれも平年並となっている。

### 4 防除上の注意

#### 1) コナジラミ類、アザミウマ類

- (1) 栽培終了時には、施設を密閉し蒸し込みによる害虫の死滅を図り、拡散防止を徹底する。なお、蒸し込みに当たっては、植物及び雑草を掘り上げ（根上げ）してすぐに密閉し、内部の植物が枯死してから10日の蒸し込み期間を確保する。断茎して蒸し込むと、生き残った株元が餌源となり、蒸し込みの効果が十分に得られないため、必ず根まで掘り上げる。
- (2) 施設内や施設周辺の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、除草を徹底する。
- (3) 次期作付に当たっては、育苗期から防除（粒剤施用等含む）を徹底し、本圃ハウスには防虫ネットを必ず設置し、害虫の侵入を防止する。

## 2) 土壤病害虫

- (1) 土壤病害虫の発生がみられた施設では、改良太陽熱消毒やくん蒸剤等による土壤消毒を行う。
- (2) 土壤消毒の効果を高めるため、被害残さは地下部も含めてできるだけ施設外に持ち出し、土中深くへの埋設やビニル袋などに密閉するなどして適切に処分する。また、施設内は耕起を行って残さの分解を早めることが重要である。
- (3) 施設内で使用した資材・農機具等についても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壤病害虫の密度低減に努めるとともに、消毒後は病害虫による再汚染が起らないように注意する。
- (4) 次期作付けに当たっては、種子消毒や栽培管理を徹底する。

その他詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）等関係機関に照会してください。

### 《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 壹岐

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpjn.ne.jp/miyazaki>